一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 47 回 LLW 放射能評価分科会議事録

1. 日時： 2022 年 3 月 29 日（火） 15 時 00 分～16 時 00 分

2. 場所： Webex ソフトを使用しての Web 会議

3. 出席者 （順不同，敬称略）

（委員） 高橋（主査），相澤（副主査），大畑（幹事），泉田，尾崎，小澤，佐々木，
竹田，田辺，中田，原賀，松井，伴場，見上，三宅，吉岡，脇（17 名）

（欠席委員） 柏木，平井（2 名）

（常時参加者） 荒巻，池戸，小瀬村，副島，竹内，野崎，野田，林^(隆)，林^(宏)，古田，宮田，
村上，本山（13 名）

4. 配付資料

F10Ph2SC47-1 第 46 回 LLW 放射能評価分科会 議事録案

F10Ph2SC47-2 人事について

F10Ph2SC47-3 （欠番）

F10Ph2SC47-4 2022 年度 標準策定 5 か年計画（原子燃料サイクル専門部会）

F10Ph2SC47-参考 1 LLW 放射能評価分科会 (F10Ph2SC) 委員名簿

5. 議事

（1）主査挨拶，及び出席委員の確認

冒頭，高橋主査より，このところ，規制庁技術評価への対応が大きな問題となっている。規制庁との見解のずれ違いや学会標準の在り方と技術評価の目的とのギャップもあり，当初想定よりも対応が遅れ，年度を跨ぐこととなり，本分科会の体制も変わりつつある状況。このような状況の中，本日は今年度最後の分科会となるが，現状を整理した上，新しい体制に繋げていきたい。引き続き，ご支援をお願いしたい。との趣旨の開会の挨拶があった。

大畑幹事より，会合開始時点で委員 19 名中 16 名が出席しており，定足数(13 名以上)を満足している旨の報告があった。(最終的には 17 名が出席)

（2）前回議事録案の確認

前回分科会の議事録案（配布資料 F10Ph2SC47-1）について，大畑幹事より，事前送付してコメントがなかった旨説明があり，コメントなく承認された。

（3）人事について（報告）

高橋主査より，F10Ph2SC47-2 に基づき，大畑幹事の幹事退任（2021 年度末まで）と脇委員の新幹事指名（2022 年度当初から）について報告があった。特に異論等なし。

大畑幹事は，幹事退任後も引き続き，委員として本分科会に参画し，脇新幹事のサポートを行う。

また、L1 放射能評価標準の規制庁技術評価については、学会としての対応者を原子燃料サイクル専門部会及び標準委員会での審議を経て選任して対応中であるが、技術評価対応が終盤に差し掛かっていることから、正式な学会対応者は現状のまま変更せず、脇新幹事には、関係電子メールを同報することで情報共有の上、規制庁面談や検討チーム会合に出席いただくことで、実質的な対応者として参画いただくこととなった。

(4) L1 放射能評価標準の原子力規制庁による技術評価への対応状況について（報告）

大畑幹事より、L1 放射能評価標準の原子力規制庁による技術評価への対応状況について、口頭で以下の報告があった。

- 昨年12月7日開催の規制庁との面談において、第2回及び第3回検討チーム会合で原子力学会から説明した資料に対する規制庁の追加質問が提示された。
- その後、学会対応者において、上記の規制庁からの追加質問に対する回答案、並びに、別途、規制庁から回答要請が出されていた補足質問（その2）に対する回答案についても作成し、専門部会及び標準委員会三役の確認を受けた後、本年3月8日に規制庁に送付した。
- その後、3月22日に規制庁と面談を実施。面談時にいただいた追加コメントを踏まえて、現在、学会対応者にて資料を更に修正中であり、早期の規制庁への回答を目指している。
- 次回の規制庁面談、検討チーム会合の開催日程は現時点において未定。学会側の対応の遅れによって2022年度にずれ込む状況となっているものの、規制庁は、技術評価書をきちんと作成し、現行標準の不足点は明らかにしたいとの意向を示している。

これに対して、高橋主査より、複数の評価手法を準備している学会標準と、個別事例に対して適用する手法を1つの絞りたい規制庁との間でのせめぎ合いがあり、評価手法間の同等性の説明に苦慮した。学会としては保守性が確保されていれば同等であることを丁寧に説明してきたが時間を要した。規制庁には、国際標準と整合性についても考慮していただく必要がある。との発言があった。

また、中田委員から、事業者の立場としては、技術評価を要望した時点では、技術評価において許認可の審査レベルのここまで詳細なことを聞かれるとは想定しておらず、どこまでを認めてもらうかについての見通しが甘かったと思う。多大な労力を費やしていただいている関係者に感謝している。との発言があった。

更に、相澤副主査より、皆様のご尽力により、先が見えてきたように思う。引き続き、よろしくお願ひしたい。との発言があった。

その他の委員からは特にコメント等は出されなかった。

(5) 標準策定5か年計画の2022年度計画について（報告）

大畑幹事より、前回分科会において了承された2022年度標準策定5か年計画案を原子燃料サイクル専門部会の田村幹事に提出したところ、同工程表中に記載していたL1放射能評価標準の2022年度からの改定作業着手については、標準委員会で正式承認された後に反映すべきとコメントを受けた。このため、同資料をF10Ph2SC47-4の通り修正を行い、3月2日に開催された標準委員会で最終承認された旨の報告があった。特にコメント等なし。

2022 年度標準策定 5 か年計画は 4 月中旬に学会 HP に掲載・公表される予定であり，誤記修正は可能なので、何かあれば幹事に急ぎ連絡することとなった。

(6) その他

次回会合は，規制庁の技術評価対応の進捗状況を踏まえて開催することとし，具体的な日時については，調整の上，後日，新幹事より連絡されることとなった。

以 上